

## 第5回ワーキンググループ会議

### 【活動WG】議事要旨

**日時**：平成28年11月14日（月） 13：30～15：30

**場所**：本庁舎2階 21会議室

**出席**：委員3名、事務局4名、北大3名

**議題** 「創作環境」、「管理運営体制」について

#### ■ 今後の予定について

##### スケジュールの変更点

- ・ 本来であれば、今回のWGでキーワードをもとにした議論を終了する予定であったが、各グループでアイデアが多く出ているので、スケジュールを少し変更する。
- ・ 第6回ではフォーラムの報告とともに、その内容と関連するキーワードで「機能連携」と「まちづくり」についての意見交換を行う。
- ・ 第7回では、全てのWG会議を合同で開催し、これまでの議論を振り返るとともに、検討委員会での成果報告を行う。

#### ■ 苫小牧版アイデア集の紹介

##### キーワード「余暇環境」に関するアイデア

1. ゴーゴーナイトキャンペーン
  - ・ 24時間体制は施設や市民にとってあまり需要がないという意見も踏まえ、合宿のような利用や23時頃までの利用といった市民のニーズに合わせた時間帯に施設を開放するというアイデアである。
2. 芝生ファンクラブ
  - ・ オープンスペースでのイベントや取組を企画する市民組織のアイデアである。屋外で開催することで文化芸術への敷居が低くなり、より市民を取り込みやすくなることが期待される。

##### キーワード「フレキシビリティ」に関するアイデア

1. 子どものわくわく社会見学

- ・ 子供を雨の日に遊ばせる場所や、子供の居場所づくりが必要だというこれまでの議論を踏まえた社会見学イベントなどを開催するアイデアである。子どもの利用者を増やし、賑わいを創出することができる。

## 2. 大人のいきいきカレッジ

- ・ お年寄りが主催の若者に対するスキルアップセミナーや民生委員の勉強会を開くといった、大人を対象にした事業アイデアである。人生の先輩である高齢者が若者に対して教えることで、世代間交流にもつながる。

## 3. レベルアップ！みんなの部室

- ・ 小学校のお楽しみ会やレクリエーション会を新しい施設で開催するなど、既存活動との連携を試みるアイデアである。施設の賑わいや、活動を増やすという効果が見込まれる。

## ■ キーワード「管理運営体制」について意見交換

### 現在の指定管理者の運営方針に対する指摘と課題

- ・ 十数年前に、民間による公共施設の管理を認める指定管理者制度が採用され、苫小牧でも、多くの公共施設は指定管理者が運営している。コミュニティセンターでは、コミセン祭りといった市民を楽しませる事業も行われている。
- ・ 指定管理者は、運営の内容について自分たちなりのイメージを持っている一方で、行政が決めた管理項目だけを遂行しているのが気になる。ただ市から委託されたとおりに運営するだけでは不十分ではないか。
- ・ 予算にも当てはまるが、行政が決めた枠組みを超える運営ができない仕組みになっているのが問題であろう。決められた範囲を超えるような要望は、すぐに却下される。ある程度、指定管理者の裁量を認める方針がいいのではないか。特に文化芸術の分野では、あまり枠にはめない方がよいように思う。

### 指定管理者に、ある程度運営に関する権限や自由度を与えることの必要性

- ・ 「Café Fermata(武蔵野プレイス)」の事例では、カフェといっても名の通ったコーヒーショップが入っていれば良いという考えではなく、市民が参加できるようなイベントを開催する指定管理者を選んでいる点がポイントである。
- ・ いろいろな施設に食堂やカフェはあるが、こういった参加型の取組をしているカフェは非常に良い仕組みだと思う。さらに、指定管理者が権限を持っているのが良い。きっと武蔵野市は指定管理者がオリジナルな運営ができるようある程度、権限を任せたいのだろう。

- ・ 市民の声を取り入れながら運営していくにあたり、運営の自由度が増すような枠組みや規制の緩和を実施する必要があるだろう。紹介された事例をみても、最近はそのような傾向があるのではないかと思う。
- ・ 市民の意見や要望をしっかりと取り入れてくれる運営組織を考えることが重要だと考えている。また、市民の意見や要望を取り入れていく際には、同時に市民側にも責任は生じてくる。受け身ではなく、しっかりと考えた上で要望を出したり、要望を実現するために実行する姿勢などが市民にも求められる。

### ボランティアを取り入れた管理運営の可能性と課題

- ・ 「喜多方発 21 世紀シアター」の事例にみられるボランティア組織と文化団体の組み合わせによる施設運営は苫小牧に合っていると感じた。苫小牧にも、文化団体が数多くあり、かつ指定管理をしている企業もあるので基礎は出来ている。PMF のボランティアも小規模ながら育ってきているので、施設運営を視野に入れて意識的に取り組めば、参考事例のような試みも実現可能かもしれない。
- ・ 町内会のボランティアや自分の子どもの PTA 活動にも参加しないような人が多い現状で、ボランティアを募ったところで人は集まるかと疑問視する声が多い。お金を出さないと人は集まらないのではないか。
- ・ 確かにボランティアで管理運営を申し出る人はどの程度いるかわからない。全部をボランティアに依頼するのではなく、一部のイベントだけとするのはどうか。プロは常駐の管理者、市民の演奏会はボランティアでの運営というように分担しては良いのではないか。

### やりがいのある仕事を割り当てることが、ボランティアをうまく取り込んでいくポイント

- ・ 市民会館などでは、市民文化祭が年に一度開催されている。民謡の発表の時に設計された紀伊国屋文左衛門の舞台装置である船を揺らす裏方役を経験したことがある。市民会館のスタッフみんなで何度も打ち合わせをして協力した。30~40 人のボランティアや関係者が一丸となったステージ作りで、文化団体と市民会館役員とボランティアが協力することは可能であるように感じる。
- ・ ボランティアを単純な作業要員ではなく、演奏に関わるスタッフとみなすことで PMF ではボランティアによる運営が育った。ボランティアの仕事は、最初はチケットのもぎりやグッズの販売のみだったが、徐々に演目の説明をお客さんにできる程度には勉強することを始めた。金融機関のホールでのコンサートでは、ボランティアが演目の説明をした。ボランティアに参加することで自身の見識が広がるといったメリットが

参加につながるのではないか。

- ・ タダ働きのイメージがあり、ボランティアを起用するのはなかなか難しいという意見が多い。しかし、他の参考事例では働いた後にお弁当が支給されたり、人脈やネットワークが培われるような仕組みづくりを上手くしている。ボランティアを行う市民が受け身ではなく、主体的に参画できるように工夫することがボランティアを上手く運営に取り入れていく際のポイントであろう。

## ■ キーワード「創作環境」について意見交換

### 世代間交流にもなり得る創作環境

- ・ 「えひめこどもの城」では、高齢者がパソコンを使ったカレンダーの作り方をこどもに教えるといったイベントが開催されている。講師と生徒とのふれあいが世代間交流につながる催しは非常に評判が良い。

### 予約なしでも気軽に創作体験ができるイベントの紹介

- ・ 「札幌芸術の森美術館」では、材料と作り方のテキストが置いてあって予約なしでもカップやバンダナなどが手作りできるものと、週末にマンツーマンの講師がついて陶芸体験ができるものの2種類の工房がある。どちらも有料だが、気軽に創作体験ができて良いと感じた。

### 子どもの文化活動を育てる、機材や楽器が気軽に使える環境

- ・ 子供の頃、イトノコギリで工作などしていたが、今はやらなくなってしまった。施設の中で、そういった工作機材などが自由に使える場があると、大人になっても継続する市民が増えていくのではないか。
- ・ 「札幌芸術の森美術館」では、小・中学生を対象にしたジャズオーケストラの活動もある。工作の機材だけではなく、楽器などが気軽に使用出来る環境があるのもいいかもしれない。

### 食に関する事業（レストランやカフェ）が社会的貢献にもなっている事例

- ・ 「コミュニティ・レストラン」の事例のような「食」を使った事業アイデアは、他のWGでも出ており、文化芸術に関心のない市民に対しても来訪のきっかけになるのではないかと重要視している。
- ・ 同樹会苦小牧病院のすぐ近くにある障がい者施設で他のレストランよりも安価でカレーが提供されており、コミュニティ・レストランと雰囲気は似ていると思い見ていた

が、そのお店はふれんどビルに移転し、現在も営業している。

- ・ 障がい者の雇用もしているなど、目的がしっかりとしたカフェやレストランが施設内にあると良いのではないか。
- ・ 単に食事サービスを提供するのではなく、地域社会に貢献する意義があるのは、公共施設の中にある施設という意味では非常に重要な観点であろう。

#### ■ 実践してみたい事業のアイデア出し

- ・ 市民ホールができた時、WGメンバーの方たちには、市民を牽引する存在となることを期待している。そこで、新しい施設で実践していたいことを具体的に話し合いたい。

#### 趣味や習い事を市民の人に対して発表・発信していく場づくり

- ・ 趣味でものづくりや料理を作る友達が多い。作ったものを市民に見てもらおうという発表の場ができればいいと思う。
- ・ 「コミュニティ・レストラン」のように、提供できる場があるのもよいかも。成果品を市民に向けて振る舞うことで、通常の料理教室よりもオープンなイベントになるのではないか。
- ・ 御前水のところで友人がおにぎり屋を経営していた。その小屋で週末だけお店を開こう、という話が進んでいる。お金儲けというよりも、お酒好きだからバーテンをやりたい、作った料理を振舞いたいという意識なので、「コミュニティ・レストラン」の事例は良いと思った。
- ・ ものづくりが趣味の友人は、作ったものを道の駅、マルシェ、近所のカフェなどで出品している。
- ・ 新しい施設では、マルシェや人に教えるワークショップなどを開催もできるかもしれない。

#### 教えてくれる人がいる、音楽が練習できる場づくり

- ・ 趣味で始めたサックスは、まだ音が出ない練習段階だが、夜間は家で練習できないなど練習場所の確保は難しい側面がある。
- ・ ホールや施設が練習の場として開放されていると良い。
- ・ ジャズフィールドというジャズの文化団体では団員が減少しており、ジャズを教えたがっている。教えたい人、教えて欲しい人のニーズを施設側でしっかり把握しておく必要がある。

### シニアや大人を対象にした、講師付きの音楽講座

- ・ 部活動などで吹奏楽をやっている子どもが大人に教えるというのは面白いのではない。子どもにとっても大人と接することで勉強になる。
- ・ プロ志向ではないが楽器を始めてみたいと思いながらも、誰に習えば良いか分からないという高齢者は多い。マンドリンは簡単そうと行って 60 歳以上の方が 10 人以上私のサークルにやって来た。子どもが教えるといった気軽な講座を設けると、高齢者が集まってくる可能性がある。
- ・ 入院してからサクスを始めて、札幌のジャズフェスに出演するほど上達した人もいる。そのときは一人では下手だからとプロのピアニストとのコラボレーションでのセッションであった。高齢者を対象にした音楽サービスはニーズがあるように思われる。
- ・ 駒澤高校の先生が主催で、シニアバンドが去年結成された。40 歳以上が対象で、講師は駒澤高校の卒業生で現在大学生の友人などである。初心者から、学生時代の経験者、子供をきっかけに興味を持った父母などメンバーは多岐にわたり、20~30 人集まった。今年は定員を締め切るほど人気がある。
- ・ 大学生が大人から礼儀を学んだり、LINE で連絡するなど若者のツールを使ったコミュニケーションなど、世代間交流になっている。年上の人に教えることで、毎回発見がある。

### 世代間交流や、技術の伝承にもなるホール専属の市民バンド

- ・ 駒澤高校のシニアバンドのように、ホール専属の市民バンドがあるとよいかもしれない。
- ・ 札幌芸術の森のジャズバンドは 1 期 1 年でメンバーが入れ替わる。週 1 で集まって講師から指導を受けながら練習して、年末の定期演奏会で解散するというサイクルがあるようだ。
- ・ メンバーが固定ではなく、サイクルがあるというのが大事なポイントであろう。多種多様な世代で教える・教えられるという関係づくりが、専属バンドの中で構築できるとよい。
- ・ ジャズ、オーケストラ、マーチング、軽音楽、それぞれの分野で練習方法は異なる。幅広く文化が育つように、新しい施設でも様々なグループを組み込めば、苫小牧全体で音楽分野のバランスが良くなるのではないか。そのためには、教える人の存在が重要になってくるように思う。

### 高価な機材や楽器を気軽に使えるできる仕組みづくり

- ・ 上磯中学校の吹奏楽部が全国コンクールで金賞だったように、ホールで大きな楽器を自由に使えるような町ぐるみでの支援が技術の向上につながるのではないか。パーカッションやティンパニ、ドラムセットなどの大きな楽器の貸出しもアイデアとして考えられる。消耗が激しく、管理の難しさの点で議論はあると思うが、レンタルできたり合宿で使えたりといったシステムは、若い人を育てる核となるように思う。
- ・ 設備が備わっていると同時に、そういった楽器の演奏方法を教えてくれる人の存在も重要ではないか。
- ・ 音楽では、演奏者・鑑賞者という関係が主であり、学生時代の部活動や趣味で楽器を持っていない限り楽器を実際に触れる機会はほとんどない。そういった楽器に触れたことのない市民が楽器に触れる機会を設けるとよいのではないか。楽器に触れるということがきっかけに交流が生まれるかもしれない。
- ・ 芸術の森での創作体験も、まずは気軽に挑戦できるという方向性という点で似ている視点であろう。

#### ■ 検討委員会の進捗報告

- ・ WG で出てきたアイデアを検討委員会に報告して、各 WG で共通していることなどをまとめている。今回、出てきたアイデアを「育てる・集う・知る・関わる・つなぐ」という事業に分類した。事業別に見たときに各 WG のアイデアで連携していけるように考えていきたい。

#### ■ 検討委員会の進捗報告を受けての感想

- ・ 各 WG で様々な意見が出てきており、情報量が多く自身の頭を整理できていない。意見をまとめることは大変で、全ての意見を実現できるかはまだ何とも言えないが、今後情報整理をしっかりと進めていきたい。
- ・ 鑑賞 WG と活動 WG で出たアイデアを、別々に実践するのではなく同じ取組として実施することができるかもしれないといったように、WG で出たそれぞれの意見を統合化し、まとめているのが検討委員会での検討内容である。
- ・ 豊橋市文化振興指針の体系図は、市民ホールの基本計画の最終的なイメージとして参考にしている。基本施策の項目が、WG で出されているアイデアに相当している。これまでに出ている意見は、どれも苦小牧独自のものであるように感じられ、非常に期待できる内容になってきている。

#### ■ 今後のスケジュール

次 回 (第 6 回) : 12 月 19 日 (月) 13:30~@市役所 2 階 21 会議室

次々回 (第 7 回) : 2 月 22 日 (水) 13:30~@市役所 2 階 21 会議室